
人に迷惑をかけない方法

臨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人に迷惑をかけない方法

【Zコード】

Z9067L

【作者名】

臨

【あらすじ】

うだるような暑さでまいった少年のよくわからない疑問について
考えてみた

「人に迷惑をかけないで死ぬにはどうすればできるのだろうか。」

頭の中に張り付いた小さくも大きくも取れるその疑問に首を傾げる。あまり良い内容とはいえない疑問だがそこは自殺をはかる生き物、人間だからと区切つておこう。

よくよく思つてみれば事故だろうが病死だろうが眠りながら逝こうが人が死ぬと家族または友人が泣いたり悲しんだり、葬式やらなんやらでお金だつてかかる。まして交通機関を使っての自殺なんて多大なる迷惑だ。死んでからかける迷惑はかなりのものである。

いつそ死んでしまうのであればどこかの山奥で土に還ればと思うのだがそれでは山を管理している人にも迷惑をかけてしまうしそこに住む動物たちにも迷惑がかかるだろう。つまり結論から言うと迷惑をかけずに死ぬ方法はないのだろう。まあ貧相な僕の頭で考えられる範囲で、だが。

つまらない話であるといわれても仕方がない。だつてそれは僕自身がそう思うのだから。こんな疑問は冷えた水で飲み干して流したい。が、一度思考の渦に嵌まるとなかなか出られない。

考えることは人間に与えられた最高のなんとかという言葉を聞いた

ことがあるがこれではまだ本能むき出しで争い、食す動物のほうがいいとまで思えてきた。

末期かもしれない。

負のスパイラルに嵌まりつつ僕は扇風機に手を伸ばし、スイッチを押した。

「それにしても暑い。」

こんなことを考えながら僕は死ぬ気なんてさらさらない。聖者になんてなる気はこれっぽっちもないが生きていりや樂しいこともあるだろ？

反面、悪いこともまた然り。

こんな風に思うのは暑さのせいだ、と壊れたクーラーを睨み付けそつと扇風機に近づいた。

生ぬるい風が頬を撫でる。

こめかみから汗がひと筋、流れて落ちた。

(後書き)

処女作です

私が暑さにやられた時に思った疑問を書いてみた
いまだに答えは見つかっていません

次はもう少し文章を長くしたいですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9067/>

人に迷惑をかけない方法

2011年1月9日01時32分発行